LEICA FASCINATION

永遠のマスターピース、ライカMシステム

ライカ 小型速写カメラの原点

現代におけるカメラの原型

ライカが誕生する以前のカメラは、主に木箱にレンズを装着した様式で大きく、重く、素早く操作することも困難でした。ライカのプロトタイプとして知られるウル·ライカ（ウルはドイツ語で「元祖」の意）が誕生したのは1914年。このライカこそ、私たちが頭に思い浮かべる“両手で持ち目の高さに構えて撮影する”という一般的なカメラのイメージの原点となったモデルです。ここからライカの100年以上にわたる歴史が始まります。

撮影者の視点で考案されたカメラ

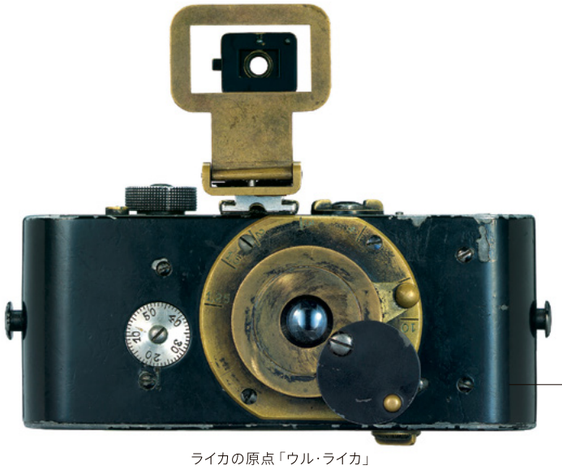
顕微鏡の製造などで名を馳せたドイツの光学メーカー、エルンスト·ライツ社（現在のライカカメラ社）の技術者オスカー·バルナックは、熱心な写真愛好家でした。しかし、当時のカメラは彼にとって完全なものではありませんでした。もっと自由に、軽快に世界と向き合い撮影したい。技術者であり、表現者でもあったオスカー·バルナックの写真に対する情熱によって、ライカは生み出されたのです。

小さなカメラで大きな印画を

現在から100年ほど前のカメラは、名刺サイズ以上のガラス乾板やシートフィルムを使用するのが一般的だったのに対し、ライカは映画用フィルムを採用していました。このことから、クラインビルト（ドイツ語で「小さな絵」の意）カメラと呼ばれましたが、顕微鏡の製造で培った精密光学技術を活用することで、小型ながら極めて優れた画質を持ち合わせていました。ライカは、小さなネガから大きな写真に伸ばせるカメラとして知られていきます。

スナップショットの発明

それまでのカメラとは比較にならないほど自由で軽快な撮影を可能にしたライカは、写真の世界に革命をもたらします。撮影者の目の前で変化し続ける光景を瞬時に捉える“スナップショット”の技法がライカの登場とともに編み出されたのです。これにより、数多くの写真家が歴史に残る傑作を世に残しています。



ライカの原点「ウル·ライカ」

1914

Mの誕生

撮影者とともに世界のあらゆる場所へと赴き、その光景を
即座に活写することを可能にしたライカは、小型速写カメラの代名詞となりました。
第2次世界大戦後には世界各国から類似品も登場しましたが、
ライカは決定的な進化でライバルを引き離します。
それまでのバルナック型ライカの基本的骨格を継承しながら、
さらなる速写性と正確なフレーミングを実現したライカM3が誕生したのです。
ドイツの機械工業が黄金期を迎えていた1954年の出来事です。

ライカMシステム

現在もライカを代表するシステム名として継承されている「M」は、メスズハー（ドイツ語で「距離計＝レンジファインダー」の意）に由来します。視界の中から写真として切り撮られる範囲を示すフレームが空中に張り付いたように浮かび上がり、その中心部には正確無比なピント合わせを可能にする二重像合致式の距離計を搭載したファインダー。迅速なレンズ交換を可能にするバヨネット式のマウント。これらの秀でた機能により、M型ライカは世界最高のカメラとして揺るぎない評価を得ることになりました。

ライカM3製造当時のライツ社

明るく鮮明なファインダー

M型ライカの光学式ファインダーを初めて覗けば、明るく鮮明でコントラストのある被写体が、常に同じサイズで見えていることに気づくでしょう。世界を観察する視角は一定で、そこから写真として切り出す範囲をブライトフレームが示します。撮影される部分だけが見える一眼レフとは異なり、ライカMシステムの光学式ファインダーは撮影範囲の外側の状況も把握できるのです。

継承されるMの伝統

ライカMシステムのアイデンティティーである極めて精密な光学式ファインダーは、現代のデジタルMシステムにも受け継がれています。一眼レフカメラのファインダーより遥かに複雑な構造で、100以上の極めて精密な部品から構成される特別なしつらえは、ライカがライカ以外のカメラから卓逸していると評されるひとつの理由なのです。

ライカMシステムのカメラにレンズを取り付けると、レンズの焦点距離に対応したブライトフレームが現れます。明るく鮮明に映し出されたこのフレームは、装着したレンズの撮影範囲を表します。

20世紀のマスターピース　ライカM3

1954

Mに息づく伝統と革新

Made in Germanyの誇り

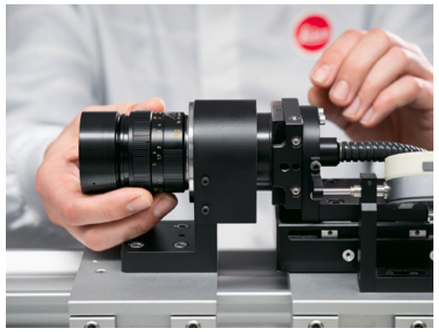
ライカは常に表現者のための道具であり続けています。カメラまかせでなく、あくまで人間が主体となり写真をクリエイトしていくための道具。写真撮影に必要な本質的な機能を見極めたうえで、本当に必要とされる革新的な技術が盛り込まれています。ライカMシステムは、ライカ創業の地であるドイツ・ウェッツラーのライツパークに2014年竣工した新社屋の工場で製造されています。高度な製造技術とクラフツマンシップ。独創性と高級感。これらはすべてライカの長い歴史の中で培われ、デジタルの最新機種へと継承されるビジョンです。

ライツパーク

ライカ判 フルサイズの撮像素子

デジタル撮像素子の大きさを表すフルサイズとは、1914年にウル・ライカが設計された際にライカが定めた撮影サイズそのものです。映画フィルム2コマぶんを1フレームとして記録する24×36mmのフォーマットは、通称ライカ判と呼ばれています。フルサイズの撮像素子はコンパクトなデジタルカメラの2倍以上の面積であることから、高画質カメラの証とされています。ライカMシステムは、ボディもレンズもフルサイズのプロ仕様カメラとしては驚くほどコンパクトでありながら、デジタル一眼を凌駕する極めて優れた画質を提供します。

ミラーもなくコンパクトな設計のM型カメラは奥行きも極めてスリムです。Mレンズのサイズも他のフルサイズ一眼レフ用レンズに比べて約半分なので、システム全体の小型化・軽量化が可能になります。



厳格な品質管理で製造されるMレンズ

ボディとレンズのコンビネーション

ライカMシステムには、厳格な品質管理のもとで製造された高品位な交換レンズが用意されています。ズミクロン、ズミルックス、ノクティルックスなど魅力的な名前の付けられた交換レンズは、いずれも極めて優れた描写性能とコンパクトなデザインを両立させています。M型ライカのピント精度は一眼レフを遥かに凌ぐことから、レンズの能力を存分に発揮させることができます。また、システムの互換性にも優れ、60年以上前に製造されたMレンズを、最新のM型デジタルカメラで使用することも可能です。

Now

ライカM11

撮る悦びと、所有する愉しみ

創造力を自由に発揮

レンジファインダーカメラは、撮影者の体験した出来事をリアルで自然に描き出すことに適しています。周囲の状況をかき乱すことなく調和し、貴重な場面やムード、瞬間を思いのままに切り撮り、印象的な1枚の写真に収められるのです。ライカMシステム最大の特長であるレンジファインダーは、一眼レフなどの一般的なカメラと全く違う見え方で世界を観察することで、写真の仕上がりに大きな違いを生みだします。撮影者は物事を大きな視野で見つめ、どんな時でも創造力を発揮しながら構図づくりやフレーミングを行うことができます。

シンプルで奥深いカメラ

撮影の本質に関わる機能だけを厳選して搭載した各種のM型デジタルカメラは、外観も操作もシンプルです。フィルムのライカとほぼ同じサイズになった現在のM型デジタルカメラですが、ライカM11をはじめバリエーションにとんだ機種がラインナップされています。その中にはモノクローム撮影に特化したユニークなモデルもあります。個性的なラインアップの中から、自分に必要と思える最高の1台をお選びください。その選択こそが、あなたの撮影スタイルなのです。

M型ライカのファインダーを覗いてみてください。最高水準の光学式ファインダーは、炎天下の野外でも深夜の路上でも肉眼で見るような自然でクリアな視界を提供します。ブライトフレームで示された撮影範囲の外側の状況を把握しながら、写真として切り撮られる構図を決め、自らの手で画面中心部の二重像を合致させてピントを合わせます。M型ライカなら、カメラに操られるのではなくカメラを道具として使いこなす実感が味わえます。

丁寧な手作業による組み立て

時代に左右されない価値

「サスティナビリティ（持続可能性）」という概念が身近になる遥か以前から、ライカM型カメラとMレンズは末永く価値が保たれた製品の代名詞として知られ、ひとつの製品が世代から世代へと受け継がれ、愛用されてきました。その状況は、今も変わることがありません。揺るぎないデザインと、最高の素材を使い手作業で作り上げる熟練の製造工程により、ライカMシステムは特別な道具としての輝きを放っています。さらにライカアラカルトサービスでは、上質なレザー外装の交換や刻印サービスなどのオプションを選定し、オリジナルの1台に仕上げることも可能です。

© Kenji Sato

魅惑のMレンズ

ライカ ノクティルックスM f0.95/50mm ASPH.

ノクティルックスは、“Light Giant”であり“Technology driver”：すなわち最高峰の明るさと卓越した光学設計を誇る逸品です。このレンズは、非球面技術にとって画期的なものであり、当時のエルンスト・ライツ社はこの非球面レンズの量産を開始、1966年には伝説的なノクティルックスM f1.2/50mmを発売致しました。このレンズの後継機種となったノクティルックスM f1.0/50mm（球面レンズ）は、高屈折率硝材の採用が特徴で、このガラス素材は、ドイツ・ウェッツラーのライツガラス研究所で開発されたものです。

ノクティルックスM f0.95/50mm ASPH. では両方の技術を駆使し、絞り開放で最高の性能を実現しています。さらに、近接撮影時の性能を向上させるためにフローティングエレメントの技術を導入しています。あそびや引っかかりのない精密でソフトなフォーカシング機構を実現するために、フォーカシングマウントの製造には最大限の努力が注がれています。

このレンズは、自然光の中のみならず、どのような光の状況下でも開放で使用できるように開発されていますので、絞りは被写界深度の調整が必要となる時のみ使用します。

ノクティルックスM f0.95/50mm ASPH. は、浅い被写界深度を利用した創造的な撮影表現を実現するレンズの代名詞と言えます。ノクティルックスを使うことで従来の写真表現も可能ですし、これまでにない新たな表現を写真で生み出すこともできるのです。

ライカ アポ・ズミクロンM f2/35mm ASPH.

ライカMシステムの中で、最も使用頻度の高いレンズの焦点距離が35mmです。なかでも2021年に登場したアポ・ズミクロンM f2/35mm ASPH. は、コンパクトなサイズの中に光学性能を凝縮した画期的なレンズです。

このレンズはアポ・ズミクロンMレンズの第4弾で、コンパクトなサイズに最高の性能を備えています。アポクロマート補正を実現するために超低分散ガラス素材を使用し、コンパクトでありながらも最高の解像度を実現するために、3枚の非球面レンズが採用されています。

フローティングエレメントと新フォーカス機構により、わずか30cmという至近距離での撮影でも極めて優れた光学性能を実現しています。

無限遠から30cmまでの幅広い撮影距離と最高の光学性能を誇るこのレンズは、特にライカM11と合わせることでオール・ラウンダーのレンズとなり、M用マクロアダプターと組み合わせれば、1:2から1:1の倍率でのマクロ撮影が可能です。

アポ・ズミクロンM f2/35mm ASPH. はコンパクトなサイズで、あらゆる場面で最高のパフォーマンスを発揮するライカを代表するレンズです。

Peter Karbe（ピーター・カルベ）

ライカカメラ社フォトエンジニア / 光学デザイナー
フォトグラファー

2002～2021年　光学開発部 部長
2022年～　光学・プラットフォーム シニアマネージングエキスパート

世界の傑作品、ライカMシステム

レンズラインアップ

広角レンズ

ライカ ズミルックスM
f1.4/21mm ASPH.

ライカ スーパー・エルマーM
f3.4/21mm ASPH.

ライカ ズミルックスM
f1.4/28mm ASPH.

ライカ ズミクロンM
f2/28mm ASPH.

ライカ エルマリートM
f2.8/28mm ASPH.

ライカ ズマロンM
f5.6/28mm

ライカ ズミルックスM
f1.4/35mm ASPH.

ライカ アポ・ズミクロンM
f2/35mm ASPH.

ライカ ズミクロンM
f2/35mm ASPH.

標準レンズ

ライカ ノクティルックスM
f0.95/50mm ASPH.

ライカ ノクティルックスM
f1.2/50mm ASPH.

ライカ ズミルックスM
f1.4/50mm ASPH.

ライカ アポ・ズミクロンM
f2/50mm ASPH.

ライカ ズミクロンM
f2/50mm

望遠レンズ

ライカ ノクティルックスM
f1.25/75mm ASPH.

ライカ アポ・ズミクロンM
f2/75mm ASPH.

ライカ ズミルックスM
f1.5/90mm ASPH.

ライカ アポ・ズミクロンM
f2/90mm ASPH.

ライカ マクロ・エルマーM
f4/90mm

ライカ アポ・テリートM
f3.4/135mm

ライカ トリ・エルマーM
f4/16-18-21mm ASPH.

世界の傑作品、ライカMシステム

ボディラインアップ

ライカM型カメラ

デジタルカメラ

ライカM11
ブラックペイント

ライカM11
シルバークローム

ライカM10-R
ブラッククローム

ライカM10-R
シルバークローム

ライカM10 モノクローム

フィルムカメラ

ライカMP
ブラックペイント

ライカMP
シルバークローム

ライカM-A
ブラッククローム

ライカM-A
シルバークローム

ライカ カスタマーケア　Tel 0570-055-844
www.leica-camera.com